

令和6年7月12日

工業会 JEAS カメラ画像利用安全利用推進委員会

DX推進プロジェクト、個人情報管理室

画像と文字の AI 利用について社会のご理解をいただくためのお勧め事項

～地域生活者の皆様などからのご理解・ご支持をいただくために～

画像や文字の AI 利用が進む中で、各ステークホルダーに公正な情報をお伝えするためのポイントを纏めました。日々心に留め今後の事業に織り込んでいただきますようお願いいたします。

監修：丸の内総合法律事務所 木村 一輝 弁護士

ステークホルダーへの丁寧な説明

1. 顔認証や不審動作検知を使う理由を明確にする。防犯・防災はもとより、商業利用においても地域生活者の利便性向上に言及するようにしてください。組織内部や関係者や行政側担当者などから、正しい理解がなされるよう、もれなく丁寧に説明を実施してください。画像から文字を生成する場合も同じく利用目的を明確にしてください。
2. 防犯利用と商用利用を併用する場合も、開始一ヶ月前より店頭告知やホームページなどに利用目的をあきらかにしてください。個人を特定している来客対応は本人同意を得ていることを明示し、属性分析だけの場合は個人情報をすみやかに消去することを明確に伝えてください。防犯利用は一般の方を対象にしているのではなく、具体的な罪名（万引や強盗など）をあげ、登録は犯罪を敢行した者だけに限定していることを説明してください。
3. 使用する AI 技術についてオントロジーをベースに、XAI やアノテーションを可能な限り公表し、システムがブラックボックス化していると思われていないよう努めてください。JEAS 推奨の顔認証システムや推薦製品であることも付記ください。
4. サイバー攻撃等のセキュリティについて、ファイアウォール、デフォルト設定の廃止、VPN、Web3.0（秘密分散）、USB 利用も含め、強力な暗号化やパスワード対策がされていることを忘れずに説明してください。
5. システムの構築にあたっては個人情報保護法の各ガイドラインやカメラ画像利活用ガイドブックなどに準拠していることや、PIA（JIS X 9251 規格）の利用や「犯罪予防や安全確保のための顔識別機能付きカメラシステムの利用について」の観点リストのチェックを行っていることを明示してください。
6. 構築したシステムについては、誰を対象として、どのような情報をもとに、どのようなことを行っているかを説明するとともに、プライバシーの観点から配慮している事項（対象者の絞り込みや、保存する情報の内容等）についても図解などで十分に説明してください。

地域生活者・第三者視点でのチェック

7. 認定個人情報保護団体（カメラの防犯利用と商業利用の両方担当は JEAS のみ）や専門弁護士に事前のチェックをもらってください。
8. 消費者団体の専門家（NACS<日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会>など）を入れ、市民目線でチェックをいただくことも必要になっています。JEAS の個人情報保護指針は NACS の事前チェックを受けた経緯があります。
9. 防犯情報の共同利用の開始にあたっては個人情報保護委員会に企画段階で相談をお願いします。匿名化された商業データであったとしても第三者提供は社会の理解が得られることが難しく相当の配慮と準備が必要です。

導入後の適切な対応

10. 導入後の定期監査の実施と具体的な効果検証の発表が一番重要であり、その組織体制も含め公表することが望ましいです。登録内容や保存期間への言及や消込の徹底も重要です。
11. 問い合わせ先は明確に告知し、情報開示請求の受付方法も誠実さが伝わるよう心掛けてください。
12. 報道内容に誤りや誇張があった場合の記事訂正をお願いする方策を知っておくと良いと思います。
13. サービス利用規約等に「不適切利用が確認された場合はシステムの利用を停止する」旨を記載し、実際にそのようなことが発生した場合は、適切な助言をお願いします。

本文中の用語説明：

オントロジー・・・知識ベースを構築する際、語彙や意味、関係性を他人とも共有し知識の再利用を容易にすることをオントロジーという。オントロジーは、もともと哲学用語で「存在論」を意味していました。目の前にある具体的なモノ（存在者）の個別的な性質を超えて、そうしたモノを存在させるメカニズム（存在）を問題化し考察する形而上学の一分野がオントロジーでした。転じて情報科学の分野では、「概念化の明示的・形式的な仕様」と定義されます。知識やデータ処理について記述する際のルールブック、仕様書が必要であるという考え方です。

アノテーション（annotation）・・・あるデータに対して関連する情報（メタデータ）を注釈として付与すること。XML等の記述形式を用いてメタデータをタグ付けする 경우가多く、付与したメタデータやタグを指してアノテーションという場合もあります。

XAI：Explainable AI・・・説明可能AIのこと。ニューラルネットワーク型のAIモデルによる予測や判断に関しては、その判断の根拠を説明できない場合が多く、AIの判断をどこまで信用できるのか人間には分からないという課題があります。そうした課題を解決するために登場したのが、AIの判断理由を説明できるようにした「説明可能AI」という技術です。

PIA・・・事業全体を通じて計画的にプライバシー保護の取組を実施する考えは「プライバシー・バイ・デザイン（Privacy by Design）」と呼ばれ、国際的にも重視されています。この「プライバシー・バイ・デザイン」の考えを実践する手法の一つがPIA（Privacy Impact Assessment、個人情報保護評価）です。

フロー図のイメージ

